

(様式 16)

# 薬学教育評価

## 評価報告書

受審大学名 摂南大学薬学部

(本評価実施年度) 2023 年度

(作成日) 2024 年 3 月 1 日

一般社団法人 薬学教育評価機構

## I. 総合判定の結果

摂南大学薬学部薬学科（6年制薬学教育プログラム）は、薬学教育評価機構が定める「薬学教育評価 評価基準」に適合していると認定する。

認定の期間は、2031年3月31日までとする。

## II. 総評

摂南大学薬学部は、「高い倫理観、心豊かな人間性、実践的能力を備え、わが国の医療の進化、健康・福祉の増進、生活環境の保全に貢献する薬剤師を養成する。」を教育研究上の目的として、三つの方針が策定され、6年制薬学教育を実践している。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）では、卒業までに身につけるべき「8つの資質」を設定している。教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、「8つの資質」を修得するために設定された「32の能力」を修得できるように段階的にパフォーマンスレベルが向上する構成になっている。カリキュラム・ツリー及び科目ごとの修得レベルである「卒業目標マトリックス」により、修得状況が可視化できるように工夫している点は評価できる。また、学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）に基づき策定したアセスメントプランによりディプロマ・ポリシーへの到達度や学修成果の評価及び検証を行っている。アセスメント・ツリーは、学年進行に従った評価手法・評価項目と卒業までに学生が身につけるべき「8つの資質」との関係が一目でわかる優れたものとなっている。入学者の受入れに関する方針は、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて求める学生の資質を具体的に設定している。

とりわけ、低学年から多くの科目でSGD（Small Group Discussion）やTBL（Team-Based Learning）をとり入れている点、看護学部と合同の演習科目や看護学部、農学部と合同のセミナーを開講している点、さらには、演習科目において学生間で評価させるピア評価を行っている点は特色ある取り組みとして評価できる。また、教職員の海外研修において学校法人常翔学園（以下、学園）が渡航費の全額と滞在費の一部を補助する制度を有している点や、臨床系、基礎系を問わず教員が希望すれば臨床現場で薬剤師業務を行うことのできる体制を整備している点も優れた取り組みと言える。

一方で、改善が望まれるいくつかの点を助言として指摘した。これらの点について適切に対応することによって、摂南大学薬学部の6年制薬学教育プログラムをさらに充実させることができるものと期待される。

### Ⅲ. 『項目』ごとの概評

#### 1 教育研究上の目的と三つの方針

本項目は、適合水準に達している。

摂南大学薬学部の教育研究上の目的は、「高い倫理観、心豊かな人間性、実践的能力を備え、わが国の医療の進化、健康・福祉の増進、生活環境の保全に貢献する薬剤師を養成する。」である。教育研究上の目的に、研究に関する直接的な記述はないものの、研究力を身につけた薬剤師養成を意識した内容であることを訪問調査で確認した。教育研究上の目的が、医療を取り巻く環境、薬剤師に対する社会のニーズを反映したものになっていることを定期的に検証するため、種々の学外でのシンポジウム等への参加や病院や薬局、製薬企業等への訪問の機会（「自己点検・評価書」表1-1-1）を通して情報を収集している。

「教育研究上の目的」は、摂南大学の教育の理念及び薬剤師養成に課せられた基本的使命を踏まえて設定され、医療を取り巻く環境、薬剤師に対する社会のニーズを反映したものとなっている（「自己点検・評価書」図1-1-1）。

「教育研究上の目的」は、摂南大学学則 第2条の10に規定され、学生生活ガイドブック及び履修申請要領を学生、教員、事務職員に配付して周知を図っている。学生に対しては、ガイドブックを配付するとともに、各学年のオリエンテーション等で周知している。

教員、事務職員に対しては、全ての教職員が参加する「FD・SDフォーラム」（FD：Faculty Development、SD：Staff Development）を通して周知を図っている。社会に対してはホームページで広く公表している。

摂南大学薬学部では、以下のとおり「三つの方針」を定めている（自己点検・評価時点）。

#### **ディプロマ・ポリシー（DP：卒業認定・学位授与の方針）：**

本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士（薬学）の学位を授与します。

##### ■社会的責任と使命

[DP1] 医療を提供する者としての社会的責任と使命を強く自覚し、常に人々の生命、健康、尊厳を守る意思を示す。

##### ■コミュニケーション

[DP2] 情報を的確に伝達できる説明および表現能力を身につけているとともに、コミュニケーションを通じて豊かな人間関係を構築する能力を有している。

##### ■科学の知識の活用

[DP3] 医薬品の性質を理解し、薬物治療を科学的な視点から支える。

■情報の収集と評価

[DP4] 薬物治療の実践に必要な科学に裏付けられた情報および患者からの身体的情報を収集し、評価する技能を有している。

■地域および他職種との連携

[DP5] 地域の中で、住民および他職種と連携し、健康と福祉の維持・増進、生活環境の保全、科学知識の啓蒙を司る専門家としての基本的な能力を有している。

■薬物療法における実践的能力

[DP6] 患者の様々な病態における薬物療法を総合的に評価し、医薬品の供給、調剤、服薬指導、処方設計の提案、安全性や有効性を担保するなどの薬学的管理を実践する能力を有している。

■多角的な観察と解析

[DP7] 医療の進歩の一端を担うため、多角的な視野で医療を含む自然現象を観察し、解析する基本的な能力を有している。

■生涯にわたる自己研鑽、キャリア形成と教育能力

[DP8] 医療の進歩を知り、薬剤師に対する社会の要請に応えるため、自らの適性に合った職業を選択し、生涯にわたって自己研鑽を続け、後進を育成する意欲を有している。

**カリキュラム・ポリシー（CP：教育課程編成・実施の方針）：**

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

<1年次>

■基礎学力を補完し「8つの資質」の修得に共通する教養を得るために、薬学を学ぶうえで必須な学習を開始し、広い視野を身につけ様々な分野で活動する基盤を作るプログラムを実施する。これらの実現のために、「薬剤師になるために」、「早期体験学習」、各教養科目などを配置する。

<1～6年次>

■社会的責任と使命

「社会的責任と使命」を身につけるため、自己のあり方と他者との関わりを考えるプログラムを実施する。「患者安全」、「臨床心理学」、「応用薬学実習」などの科目を配置するとともに、課外活動にも取り組む。

#### ■コミュニケーション

「コミュニケーション」を身につけるため、グローバル化への対応や自らの役割に基づいた行動を考えるプログラムを実施する。これらの実現のため、各種語学科目、「医療英会話」、「臨床心理学」、「グローバルコミュニケーション」などの科目を配置するとともに、課外活動にも取り組む。

#### ■科学の知識の活用

「科学の知識の活用」を身につけるために、自然科学の知識を補完し、薬学の基礎および専門知識を修得するプログラムを実施する。これらの実現のため、「基盤演習」などの各種演習科目、「化学系薬学実習」などの実習科目を配置する。

#### ■情報の収集と評価

「情報の収集と評価」を身につけるために、自然科学や臨床における情報の測定、収集、解析能力を修得するプログラムを実施する。これらの実現のため、各種実習科目、「患者安全」、「患者コミュニケーション」などの科目を配置する。

#### ■地域および他職種との連携

「地域および他職種との連携」を身につけるために、地域における薬学と薬剤師の役割を理解するプログラムを実施する。これらの実現のために、「セルフメディケーション演習」などの各種演習科目、「生物・衛生系薬学実習」などの実習科目を配置する。

#### ■薬物療法における実践的能力

「薬物療法における実践的能力」を身につけるために、疾病の成因および薬物治療を理解し、薬物の構造的特徴や剤形から体内動態を予測するプログラムを実施する。これらの実現のために、「カルテ読解演習」、「薬学臨床実習事後演習」などの演習科目、「医療系薬学実習」などの実習科目を配置する。

#### ■多角的な観察と解析

「多角的な観察と解析」を身につけるために、情報の測定、収集、解析をするための知識と技能を修得し、薬学研究を学び、研究に必要な態度を修得するプログラムを実施する。これらを実現するために、「DI演習」などの演習科目、「薬学研究」などの科目を配置する。

#### ■生涯にわたる自己研鑽、キャリア形成と教育能力

「生涯にわたる自己研鑽、キャリア形成と教育能力」を身につけるために、人や社会の育成について議論し、自己研鑽を図るプログラムを実施する。これらの実現のために、「教育学」、「キャリア形成」などの科目を配置するとともに、課外活動にも取り組む。

<5～6年次>

■「8つの資質」を統合した能力を身につけるには、4年次に「プレファーマシー実習」、「フィジカルアセスメント実習」、「実践薬学」などで獲得したパフォーマンスレベルをさらに向上させる必要がある。5～6年次では、本物の場で繰り返しパフォーマンスを発揮し、統合的な能力が定着する教育プログラム「薬学研究」、「薬学臨床実習」、「アドバンスト臨床薬学」などの科目を配置する。

#### アドミッション・ポリシー（AP：入学者受入れの方針）：

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

##### ■知識・理解・思考・判断

①化学を基本とする理科科目だけではなく、数学・語学などに対する高等学校での学習を基盤とした知識を活用する力を有している。

##### ■思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現

②豊かな人間性を重視する価値観を基盤とした、自らの活動実例を表現できる力を有している。

##### ■知識・理解・思考・判断・関心・意欲・態度・技能・表現

③高等学校の学習課程に限らない様々な学習に対して強い興味を示し、積極的な態度によって習得する力を有している。

入学者選抜の実施にあたっては、学力試験、適性検査をはじめとして、大学入学共通テスト、面接、学修計画書、小論文、高等学校調査書、英語ほかの資格検定試験の結果などを入試毎に組み合わせて評価します。

摂南大学薬学部では「教育研究上の目的」に基づき、「8つの資質」からなる卒業認定・学位授与の方針（DP：ディプロマ・ポリシー）が設定されている。「8つの資質」は、「社会的責任と使命」、「コミュニケーション」、「科学の知識の活用」、「情報の収集と評価」、「地域および他職種との連携」、「薬物療法における実践的能力」、「多角的な観察と解析」、「生涯にわたる自己研鑽、キャリア形成と教育能力」で構成されている。

これらの資質には学力の3要素に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働する態度等が含まれている。「8つの資質」は、具体的な「32の能力」に分けられている。「32の能力」の修得により「8つの資質」が修得でき、卒業が認定される（「自己点検・評価書」図1-2-2）。

摂南大学薬学部では、DPに掲げる目標の達成、すなわち「8つの資質」を修得するために教育課程編成・実施の方針（CP：カリキュラム・ポリシー）が設定されている。「8つの資質」を修得するために示された「32の能力」を修得できるように、段階的にパフォーマンスレベルが向上する構成になっている。

学生が、「8つの資質」を意識しながら学修できるように、カリキュラム・ツリーを作成するとともに、各科目がどの資質・能力の修得に必要であるのか、科目ごとの修得レベル「卒業目標マトリックス」を設定し可視化している。

摂南大学薬学部では、DPの達成のために、以下の通り学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）を定めている。

### アセスメント・ポリシー

摂南大学薬学部では、「卒業認定・学位授与の基本的な方針」であるディプロマ・ポリシーへの到達を測定し、その結果に基づいて摂南大学薬学部の卒業認定・学位授与を行うための6年間を通じた体系的・総合的な学習成果の評価を行います。その結果により、学習成果を可視化し、教育の改善を行います。学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針であるアセスメント・マップ（別紙）の具体的な運用を計画した学士力アセスメント・プログラムに従い、学習成果を測定します。

アセスメント・ポリシーに基づきアセスメント・ツリーを作成するとともに、アセスメントプランを策定している。アセスメントプランにより、DPへの到達度等、学修成果の評価・検証を行っている。アセスメント・ツリーは、学年進行に従った評価手法・評価項目と卒業までに学生が身につけるべき「8つの資質」との関係が一目でわかる優れたものとなっている。

入学者の受入れに関する方針（AP：アドミッション・ポリシー）は、DPとCPを踏まえ、求める学生の資質を具体的に設定している。学力試験、適性試験をはじめとして、大学入学共通テスト、面接、学修計画書、小論文、高等学校調査書、英語の資格検定試験の結果などを入試区分ごとに組み合わせて評価することで、APに合致する多様な学生を選抜している（「自己点検・評価書」表4-1-1）。

「三つの方針」は履修申請要領に掲載し、新入生には、新入生ガイダンス（1年次）において、在学生には履修ガイダンス（2～6年次）において、教員・事務職員に対しては、「FD・SDフォーラム」にて、周知している。また、ホームページに公表している。新

入生ガイダンスでは教育の理念及び「教育研究上の目的」と「三つの方針」を説明している。

「教育研究上の目的」と「三つの方針」については、教務委員会が定期的な検証を行っている。「教育研究上の目的」と「三つの方針」は、2012年度に制定され、1～2年度ごとに検証され、必要に応じて改定が行われている。改定時は、学部長が、大学・大学院運営会議にその内容を上程し、承認を受けている。

薬学部の将来構想を議論・構築するため、2022年度に将来構想委員会を組織した。委員会では、2022年度、摂南大学教育の理念の改定及び薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂（2024年度入学生から適用）をうけ、「教育研究上の目的」と「三つの方針」の改定を実施した。改定した「教育研究上の目的」と「三つの方針」は、2024年度入学生から適用する予定であり、訪問調査時には大学ホームページで公表されていた。

## 2 内部質保証

本項目は、適合水準に達している。

摂南大学薬学部では、自己点検・評価を実施する学部自己点検・評価委員会を組織している。学部自己点検・評価委員会は、毎年度、薬学教育評価の基準・観点を基本とした評価項目について、学部教育を質的・量的に検証し、改善計画をたて、学部内の各種委員会に対応を要請している。学部自己点検・評価委員会は学部レベルでの自己点検・評価を管理・統括し、教務委員会等に対してPDCAサイクルの循環を促すとともに、PDCAサイクルの遂行を監督している。

摂南大学薬学部では、2010及び2015年度に自己点検・評価を実施し、その結果をホームページで公表している。2019年度以降は、学部自己点検・評価委員会が中心となり、毎年度、自己点検・評価を実施し、その結果をホームページで公表している。2021年度には、摂南大学薬学部6年制課程の卒業生を含む3名が外部評価委員に就任し、2020年度の自己点検・評価活動について外部評価を実施した。2022年度も同様に、2021年度の自己点検・評価活動について外部評価を実施した。

2015年度の薬学教育評価機構による第三者評価において、改善すべき点として指摘された点については、2018年度までに対応を完了し、改善報告書を提出した。薬学教育評価機構の評価委員会による審議の結果、改善内容はおおむね良好と評価された。

学部自己点検・評価委員会は、2021年度の自己点検・評価活動の結果及び外部評価委員から指摘された問題点や改善に関する提案に基づき、2022年度に教務委員会、学部自己点



検・評価委員会、学部入試制度改革戦略委員会、学部長・教務委員長に改善を要請し、それぞれについて2022年度内に対応が検討され、一部実施された（「自己点検・評価書」表2-1-1）。

摂南大学薬学部には学部自己点検・評価委員会をはじめとして規約（あるいは内規）のない委員会が複数存在していることを訪問調査で確認した。自己点検・評価に係る委員会活動を適切かつ継続的に実施するために、委員会の設置目的、メンバー構成、所掌事項等を記載した規約（あるいは内規）を制定し、明示することが望まれる。

### 3 薬学教育カリキュラム

#### （3-1）教育課程の編成

本項目は、適合水準に達している。

摂南大学薬学部のカリキュラムは、CPに基づいて構築されており、教養教育、語学教育、人の行動と心理に関する教育、薬学教育モデル・コアカリキュラム平成25年度改訂版の各項目（基本事項、薬学と社会、薬学基礎、衛生薬学、医療薬学、薬学臨床、薬学研究）、大学独自の教育、問題解決能力の醸成のための教育から成っている。カリキュラムの体系的及び科目の順次性については、DPで掲げる「8つの資質」と対応するかたちでカリキュラム・ツリーに明示し（「自己点検・評価書」図3-1-1-1、基礎資料1）、各科目がどの資質・能力の修得に必要であるのか、科目ごとの修得レベル「卒業目標マトリックス」を設定して可視化している。

教養教育では、「臨床心理学」等の人文系、「ボランティア活動論」等の社会系、「生命倫理学」等の自然系、「地域と私」等の地域指向系、「教養特別講義Ⅰ～Ⅴ」の教養特別系の合計27科目を開講している。

語学教育では、「英語Ⅰa～d」、「薬学英語」、「医療英会話」、「海外語学研修」等、10科目を開講している。「薬学英語」、「医療英会話」は医療従事者として必要な語学力を修得するための必修科目であり、「海外語学研修」は医療従事者として、将来の国際的な活動に参加するために必要な語学力を修得するための選択科目である。また、キャリア形成科目として「グローバルコミュニケーション（中国語、韓国語、スペイン語、インドネシア語）」4科目を選択必修科目として開講している。2019年度に、「臨床薬学研修 at ノースカロライナ大学」を実施し、米国大学における薬学に関する研修を行ったが、2020年度以降はCOVID-19感染拡大の影響で国外研修は行われていない。

人の行動と心理に関する教育では、「コミュニケーション論」、「心理学」、「臨床心理学」、

「発達心理学」、「ボランティア活動論」、「女性学」等が教養科目として開講されている。1年次の「コミュニケーション論」、「心理学」及び「ボランティア活動論」では、人の心理を理解し、自己と社会の関係性の理解を深める。2年次の「臨床心理学」及び「発達心理学」(必修科目)では、1年次に修得した能力を基盤として、子供の発達、災害時の心理、虐待、障がい等の視点を修得する。2年次の「患者安全」及び3年次の「患者コミュニケーション」は、臨床に即した思考を修得するためのキャリア形成科目の必修科目である。

薬学教育モデル・コアカリキュラム平成25年度改訂版の各項目(基本事項、薬学と社会、薬学基礎、衛生薬学、医療薬学、薬学臨床、薬学研究)(基礎資料2)では、専門科目が、薬学教育モデル・コアカリキュラムのすべてのSBOs(Specific Behavioral Objectives)を網羅するとともに、順次性のあるカリキュラムとなるように配置している。

大学独自の教育では、専門科目のうち、「実践薬学」は、4年次までに学んだ基礎知識を臨床課題の解決に応用する力を養う演習科目である。キャリア形成科目「キャリア形成Ⅰ～Ⅳ」、「応用薬学実習」、「薬局経営」、「医療経済学」では、学生が自身のキャリアプランを考える機会を提供している。

問題発見・解決能力の醸成のための教育のうち、「薬剤師になるために」や「早期体験学習」では、薬剤師を目指すにあたり、身につけるべきことや自らに足りないところを自ら発見する。低学年次では、グループ学習での他者との討論を通して、多角的な観察力を養う。高学年次では、「応用薬学実習」や「薬学研究Ⅰ・薬学研究Ⅱ」を通して、与えられた課題や自ら発見した課題を解決する能力を醸成する。「実践薬学」、「カルテ読解演習」、「薬学臨床実習事後演習」等の演習科目では、ひとりの患者に対して解決すべき問題点を列挙し、情報の収集と解析を行い、最適な治療法を提案することにより、問題発見及び解決能力を醸成する。

低学年次から多くの科目でSGDやTBLをとり入れるとともに、看護学部と合同の演習科目(「薬剤師になるために」、「患者安全」、「患者コミュニケーション」等)や看護学部及び農学部と合同の「学修キックオフセミナー」を開講している点は評価できる。

2020年度に薬学教育モデル・コアカリキュラム平成25年度改訂版で教育を受けた最初の学生が卒業したため、2021年度に卒業生の到達度の測定結果を総合的に解析し、教務委員会で検証した結果、卒業生はDPに掲げる「8つの資質」を構成する32の能力を十分に修得できていたことから、教育課程とその内容、方法の適切性が確認された。

### (3-2) 教育課程の実施

本項目は、適合水準に達している。

摂南大学薬学部においては、講義科目では主に「知識」を修得させ、実習・演習では「技能」、「知識・技能を基にした思考力・判断力・表現力」及び「協働して学ぶ態度」を修得させている。これら学力の要素は、学習成果基盤型教育（OBE）に基づいたパフォーマンス評価により、DPへの到達度として測定している。

薬学臨床実習においては、2019年2月から担当地区に所在する実習施設を31のグループに分け、年度あるいは実習期の節目等にグループごとに協議会を開催している。協議会には、臨床系教員のみならず基礎系教員も参加している。協議会では、グループ内の病院と薬局の指導薬剤師及び大学教員が出席し、実習状況の共有や問題点への対応等について協議していることは評価できる。2020～2022年度は、COVID-19の感染拡大の影響により、多くの協議会は開催中止となったが、複数のグループでは、オンラインによる協議会を実施した。2022年度、一部の実習が中断となった施設では、補講やリモート実習で学習内容を補完した。

薬学臨床実習では、「臨床準備教育における概略評価表<近畿地区版>」を事前学習に該当する科目の評価に導入している。評価表は学生にも配付され、自己評価を行っている。実習施設に対して学生の自己評価結果を開示するとともに、教員の評価で「全ての項目が1以上」を保証することを申し送りしている。

薬学臨床実習事前学習プログラムは、「F薬学臨床」の「前）」で示される学習目標に準拠して編成している。事前学習は、2年次から開始される。2年次開講の「患者安全」は、「WHO患者安全カリキュラムガイド 多職種版」を題材にして、臨床系教員が担当している。3年次開講の「薬物治療学」と4年次開講の「症候学」では、疾患の基礎、症状、診断、治療法の選択、薬物の適正使用等に関する知識を修得させている。3年次開講の「患者コミュニケーション」では、看護学部の学生と合同でSGDを行っている。「セルフメディケーション論」は、4年次開講の「セルフメディケーション演習」への導入講義である。4年次開講の「実践薬学」では、臨床現場における問題に対して基礎薬学的にアプローチする思考力ならびに倫理観を涵養しており、臨床系、教育系及び基礎系教員が共同で担当している。また、「フィジカルアセスメント実習」では、臨床推論にかかる能力を涵養している。さらに、「DI (Drug Information) 演習」、「クリニカルパス演習」、「カルテ読解演習」、「プレファーマシー実習」では、病院薬剤業務において必要とされる能力を涵養している。これらの演習・実習では、SGDを方略として用い、知識・技能に基づいた思考力・

判断力・表現力及び協働して学ぶ態度をパフォーマンス評価している。「プレファーマシー実習」では、学生に患者情報の収集から指導記録作成までの一連の業務をシミュレーションさせ、パフォーマンスを評価している。

事前学習に関連する科目の評価基準及び評価方法はシラバスに明記されており、筆記試験、レポート、評定尺度、チェックリスト、ルーブリック等を用いている。事前学習終了時期と薬学臨床実習の開始時期が離れている第Ⅲ期及び第Ⅳ期に実習を行う学生に対して1日間の「思い出し実習」を実施している。2021～2022年度は、COVID-19の感染拡大による実習施設の方針により、薬局、病院のいずれの実習においても地域保健と災害医療に関する体験が不十分であったので、「薬学臨床実習事後演習」内に組み込み補完した。

薬学研究は、1年次からの問題解決型学習、3年次までの継続的な基礎実習、4年次の問題志向型演習を総括するものとして位置付けている。卒業研究は、5年次の「薬学研究Ⅰ」及び6年次の「薬学研究Ⅱ」が必修科目として配当されている。卒業研究の概要については、履修申請要領及び5年次への進級時に行う履修ガイダンスで周知している。薬学研究では、ガイドラインを定めている。「薬学研究Ⅰ」及び「薬学研究Ⅱ」の単位取得の必須要件として、それぞれの科目の単位数に相当する時間数（それぞれ60コマと75コマ）以上を研究活動に従事しなければならないこととしている。学生は、4年次の1月に研究室に配属され、6年次の8月まで研究に取り組む。「薬学研究Ⅱ」の時間数の要件を満たした学生は、規定の書式に沿った卒業論文を提出し、薬学研究発表会での示説発表を行うこととなっている（「自己点検・評価書」表3-2-1-1）。なお、8月までに必要時間数を充足できなかった学生には、時間数の充足後に薬学部教務委員会の審議を経て、12月に薬学研究発表会での示説発表及び卒業論文の提出を課している。しかしながら、必要時間数を充足していないにもかかわらず単位認定されている例が、訪問調査で数件ではあるが確認されたので、より厳密なチェックを行い、改善することが望まれる。

薬学研究の評価及び単位認定は、DPに定められた「8つの資質」への到達度を、学生が所属する研究室の教員が測定することにより行っている。研究室責任者（主査）は、学生を直接指導している教員（指導教員）の意見を聞きながら、薬学研究評価用ルーブリックを用いて測定を行っている。発表会においては、学生が所属する研究室以外の教員（副査）がパフォーマンス評価を行い、主査は副査の評価を勘案して成績評価を行っている。2022年度は、提出された全ての卒業論文が、既定の書式に準拠しており、ルーブリック評価に基づき、5年次生と6年次生に対して、それぞれ「薬学研究Ⅰ」及び「薬学研究Ⅱ」の単位を認定したことを訪問調査で確認した。

多くの実習・演習科目では、方略としてSGDが取り入れられ、6年間通して継続的に実施されている（「自己点検・評価書」表3-2-1-2）。実習・演習科目では、学生間でお互いに評価させるピア評価やルーブリック評価表を用いたパフォーマンス評価が行われている。

成績評価は、学生生活ガイドブック及び履修申請要領に記載の成績評価基準に基づき判定しており、各科目の総括的評価に対して設定された学業成績の評語及びG P（Grade Point）によって評価している（「自己点検・評価書」表3-2-2-1）。不合格となった科目は、原則、次年度以降に再履修することとなる。総括的評価は、定期試験、中間試験、小テスト、レポート、実技課題、授業に取り組む姿勢や態度、観察記録、その他科目担当者が到達目標への到達確認のために必要と認めた測定方法によって測定した結果を総合的に評価している。各科目において、総括的評価の測定方法と成績に反映される割合は、シラバスに明記されている。しかしながら、6年次後期の「総合薬学演習」では、本試験受験資格の記載内容が、シラバスと別途配付のガイドラインで異なっているため統一することが望まれる。ガイドラインの中に、6回実施の予備校模擬試験は自己学習の到達度を確認する手段として重要な試験であるため「必ず」受験すること、並びに、受験資格として原則第1～6回の模擬試験「全て」を受験して自己研鑽に努めていること、との記述があるが、学生に対して模擬試験受験を強制しているようにも読みとれるので、誤解のない記述に改めることが望まれる。成績評価については、毎年3月末に実施される履修ガイダンスにおいて説明している。定期試験のみで成績を評価する場合は、科目担当者より報告のあった解析結果を総括的評価の判定根拠とし、答案用紙及び点数分布表を含む成績処理データを事務室教務係で保管している。定期試験以外の方法で成績を評価する場合は、科目担当者が、学生ごとの小テストの点数や観察記録測定結果の資料に基づき、解析方法及び解析結果（100点満点）を説明している。演習・実習等の科目においては、シラバスに「全日程に出席することが単位取得の前提」と明記し、学生に周知している。

成績評価結果については、前・後期定期試験終了後に各科目の成績を整理した学業成績表を学内のポータルサイトに掲載し、個々の学生が確認できるようにしている。担任教員は、ポータルサイトで担当学生の学業成績表を確認し、適宜指導を行っている。学業成績表には、当該期末までに履修した科目の成績評価、修得単位数、成績評価基準、G P A（Grade Point Average）等が明記されている。学生が自身の成績に疑義がある場合は、定められた期間内に教務係に「成績確認願」を提出し、科目担当者が疑義に対して回答する制度を設けている。2022年度の成績確認願件数は100件、評価の変更に至った件数は9件であった。

毎年、薬学部教務委員会は、すべての科目で成績評価方法及び基準が設定され、それに基づいて適切に成績評価が行われていることを確認している。あわせて、成績評価方法及び基準を学生に周知している。

進級は、上位年次配当授業科目の履修要件に従って判定し、教授会による承認を経て確定している。進級基準は、学生生活ガイドブック及び履修申請要領に記載されている。学生に対しては、3月末に実施する履修ガイダンスにおいて、進級基準を周知している。不合格となった科目は、原則として再履修することを定めており、履修申請要領で周知している。

留年者には、基礎・教養・語学科目ならびに上限9単位の専門科目について、学部長が許可した場合、上位年次配当科目の履修を認めている。演習・実習科目に関しては、上位年次配当科目の履修は認めていない。

学士課程の卒業認定基準は、DPに掲げる「8つの資質」の修得と定められている。また、卒業認定を行うにあたり、二つの条件が履修規定で定められている。一つは卒業要件単位数として187単位以上の取得が必要であり、薬学部履修規定に必要科目等の内訳が記載されている。もう一つはGPAであり、入学時からの累計が1.3以上と定められている。毎年2月に開催される教授会において、上記の二つの条件を満たすことにより「8つの資質」すべてを修得したことを確認し、卒業を認定している。卒業認定基準は履修申請要領に記載されており、新入生ガイダンス及び履修ガイダンスにおいて学生へ周知している。

入学者に対して毎年4月初旬に新入生ガイダンスを3～4日間にわたって実施している。「学生生活ガイドブック」、「履修申請要領」等に基づいて、時間割、シラバス、年間行事予定等について説明している。また、「カリキュラム・ツリー」を用いて、6年間で学ぶ学習内容を説明している。入学時に学習能力適性試験を実施し、その結果を基に能力別クラスを編成し、1年次前期に特別講義を開講している。1年次後期及び2年次前期の特別講義は、それぞれの特別講義に関連する科目の1年次前期及び1年次後期の成績をもとに、履修対象者を決定している。

履修者のうち15%以上が単位取得できなかった科目について、当該領域を担当する教員が次年度に追加演習を実施している。

在学生に対しては、毎年3月下旬に、薬学部教務委員長、事務室教務担当職員等が履修ガイダンスを実施している。薬学臨床実習では、実習開始前に実務実習委員長が中心となってガイダンスを実施している。4年次開講の「応用薬学実習」、5、6年次開講の「薬学研究Ⅰ」及び「薬学研究Ⅱ」では、事前に研究室の受入れ方針、研究内容等を記載した資

料を学生に配付している。

定期試験の成績不振者に対しては、担任教員の他に薬学部学生委員会委員による面談を実施している。

留年生に対しては、初回留年時は、本人、保証人、担任教員、学生委員会委員による四者面談を、2回目以降留年時は、本人、担任教員による二者面談を行っている。

卒業判定によって留年となった学生に対しては、所属する研究室の責任者が指導を行っている。前期配当科目に未修得科目がない場合には、前期休学制度について説明する等、本人の希望や経済状況等に配慮した修学指導を行っている。

### (3-3) 学修成果の評価

本項目は、適合水準に達している。

摂南大学薬学部では、教育研究上の目的に基づいて薬学教育を行い、そのアウトカムとしてDPを設定し、学生がDPに掲げた「8つの資質」に到達するためのCPを設定している。「8つの資質」の到達レベルは、「卒業目標マトリックス」により、「修得する機会がある」(最も低いレベル)から「問題解決に応用できる」(最も高いレベル)まで、科目ごとに5段階で示されている。カリキュラムに則った教育の実施による学習成果を検証するため、アセスメント・ポリシーを設定している。アセスメント・ポリシーに基づいて作成したアセスメント・ツリーに従い、教育課程の進行に対応して、科目受講と単位認定に基づく卒業目標マトリックスの到達レベルから学生が身につけるべき資質・能力を評価している。DPに掲げた「8つの資質」のうち5つの資質については、DP到達確認用ルーブリックを用いた自己評価により、学生個人の意識づけも行っている。「薬学研究Ⅰ」及び「薬学研究Ⅱ」については、薬学研究評価用ルーブリックを用いて評価している。これらの取り組みにより、「8つの資質」並びに32の能力を修得できていることは保証しているが、個人の修得度の到達レベルまでは測定していない。

2022年度の薬学共用試験(CBT: Computer Based Testing 及び OSCE: Objective Structured Clinical Examination)は、実施要項に基づき作成した共用試験実施マニュアルに従って実施した。CBTについては、本試験及び追再試験ともに正答率60%以上の者を合格とした。OSCEについては、本試験において細目評価で評価者2名の平均点が70%以上、かつ概略評価で評価者2名の合計点が5点を基準とし、すべての課題で基準を満たした者を合格とした。OSCE再試験は、不合格となった課題のみを対象として実施し、本試験と同一基準で合否を判定した。2022年度の薬学共用試験の実施時期、実施方法、

合格者数及び合格基準は、薬学部ホームページに公表している（「自己点検・評価書」表3-3-1-1）。

2021年度にアセスメントプランに沿って2020年度の測定結果を収集及び解析した結果、一部の到達目標マトリックスにおいて、パフォーマンス評価を実施できていない科目があった。このため、2021年度に到達目標マトリックスについて再度見直しを行った。その結果、4年次以上の実習及び演習科目において、到達目標マトリックスB以上を設定している科目については、対応するパフォーマンスの評価を行うとともに、その修得を単位取得の要件とした。また、2021年度にアセスメントプランの見直しを行い、その項目として新たにGPAを導入し、2022年度より解析を開始している。学修成果の測定結果とDP到達確認用ルーブリックによる自己評価との相関について検証を重ね、教育課程の編成及び実施の改善や向上に活用していくことが望まれる。

#### 4 学生の受入れ

本項目は、適合水準に達している。

摂南大学薬学部における入学者選抜は、入学試験要項により事前に公開されている科目、配点等で入学試験を実施した後、採点結果に基づく可否案を教授会で審議、合格者を最終的に決定し、その後、学長により決裁される。公募制推薦入試及び一般選抜の受験生の得点については、選択科目による有利不利が生じる場合は中央値補正を行っており、そのことは入学試験要項に明記している。合格者はホームページで受験生専用の登録制サイトにより確認できる。学園内設置大学転入学選考では、合格者は1年次に転入学する。

入学者選抜は、APに基づいて行われており、2022年度（2023年4月入学）に実施した各入試区分による学力の3要素の測定状況が示されている（「自己点検・評価書」表4-1-1）。公募制推薦入試A及びB日程においては、学力試験による「知識・技能」の測定に加えて、高等学校からの報告に基づいた「諸活動・資格点」により「思考力・判断力・表現力等の能力」や「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価に加味する総合評価方式による選抜を行っている。公募制推薦入試B日程では、上記に加えて面接試験を実施し、志望動機や将来の目標、医療・健康・福祉に対する興味や考え方、医療人を目指す者としての資質・能力などを評価している。一般選抜及び大学入試共通テスト利用入試では学力試験のみの選抜となっているため、学部入試制度改革戦略委員会において、「医療人の資質」と「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を測定する方法として、すべての入試区分で面接試験を導入する方向で検討を開始していることが訪問調査で確認



された。しかしながら実施時期は未定であるので、早期の実現が望まれる。

内部推薦入試及び指定校推薦入試では、志望理由書、学習計画書、卒業後の進路目標などの提出書類に関する内容について口頭試問を行い、医療人を目指す者としての資質・能力を評価している。帰国生徒入試及び外国人留学生入試では筆記試験（小論文、英語、化学、日本語）に加え、面接により日本語コミュニケーション能力や医療人としての資質・能力などを評価している。学園内設置大学転入学選考では筆記試験（化学）と面接で評価している。

身体に障がいがある等、受験時に合理的な配慮が必要な場合は、入試部に相談窓口を設けて対応する体制を整えている。2022年度は、遮光眼鏡の装着、別室での受験、試験中の服薬を認めるなどの配慮を行った。

入学生に対しては、合格した入学者選抜試験情報に基づき、その後の学習成果の検証を行っている。検証結果に基づき、学力の3要素をより多角的かつ適正に測定できる選抜方法を検討している。2018年度から志願理由書を含む諸活動・資格点、化学実験の実技試験、実験結果に基づくグループ討議及び面接を総合的に評価する総合型選抜AO入試を行っている。本入試で入学した学生の評定平均が良いとの検証結果が得られたため、2023年度入試（2022年度実施）では、総合型選抜AO入試の募集人員を10人に増員した。さらに、2024年度入試（2023年度実施）では、総合型選抜AO入試のさらなる拡充として募集人員を15人に増員した。また、公募制推薦入試A日程（個別方式）では、2021年度から多様な人材の確保を目的として、国語を選択科目に加えた。

入学後に成績不良となった学生には、本人の希望を確認した上で、転学部等を勧めるなどの進路変更指導を行っている。

過去6年間（2017～2022年度）の入学者数については、過去5年間の定員に対する入学者の割合は、96.8～113.2%、平均105.5%であり、おおむね定員と乖離せず推移している（基礎資料3-4）。

入学試験ならびに入学者数の適切性については、進級率や標準修業年限内の卒業率等をもとに、入試制度改革戦略委員会において継続的に検証しており、今後適正化していく予定としている。

## 5 教員組織・職員組織

本項目は、適合水準に達している。

摂南大学薬学部では、全教員に対して、「求める教員像」、「教員組織の編成方針」、「教員

の能力開発、昇任、配置換え」等に関する意見を求め、それらの意見を踏まえ、教員組織の編成方針を2019年度に定めた。

薬学部の職位別専任教員数は、教授20名（31.7%）、准教授13名（20.6%）、講師15名（23.8%）、助教15名（23.8%）合計63名である（基礎資料5）。助教は、全員が特別任用（特任）助教であるが、3年の任期が付いている以外は専任教員と同様の位置づけである。また、専任教員の年齢構成は、30歳未満2名（3.2%）、30～39歳17名（27.0%）、40～49歳22名（34.9%）、50～59歳17名（27.0%）、60歳以上5名（7.9%）である（基礎資料6）。大学設置基準上の必要教授数18名及び必要専任教員数36名を上回っており、各職位の人数比率及び年齢構成も適切である。

薬剤師あるいは医師として5年以上の臨床経験を有する教員数は、教授3名、准教授4名、講師1名、助教2名の合計10名であり、大学設置基準及び文部科学省告示による配置必要人数6名を上回っている（基礎資料5）。専任教員1名あたりの学生数は21.5名（学生数1,355名、教員数63名）となっているので（基礎資料3-1、基礎資料5）、10名以内にするのが望まれる。

専門分野について、教育上及び研究上の優れた実績を有する者、もしくは、優れた知識・経験及び高度な技術・技能を有し、かつ、人間性に優れた者を教員として配置するため、教員任用規定、教員選考基準、特任教員規定等に基づき、厳正に教員選考を実施している。現在、博士号を有する専任教員数は、教授20名（100%）、准教授13名（100%）、講師14名（93.3%）、助教11名（73.3%）の合計58名である（基礎資料7）。また、現在、薬剤師免許を有する専任教員数は、教授17名（85.0%）、准教授12名（92.3%）、講師14名（93.3%）、助教14名（93.3%）で合計57名である。

摂南大学薬学部は、15研究室、4分野、1センターで構成されている（基礎資料8）。授業担当者は、全教員が毎年提出する「教育研究業績書」の内容に基づき決定している（基礎資料7、基礎資料9）。薬学教育モデル・コアカリキュラム等の内容を教授する79科目（必修及び選択必修科目）のうち64科目（81%）は、専任の教授あるいは准教授が担当している（基礎資料7）。

新規教員の採用においては、「任用規定」第16条（募集の方法）に基づき公募制をとっている。専攻分野、職位、担当授業科目、応募資格等を募集要項に明記して公募を行っている。応募者から提出された書類（「履歴書」、「教育研究業績書」、「職務経歴書」、「これまでの教育、研究および職務の概要」、「教育改善のための実践と抱負」、「今後の研究計画」）に基づき、薬学部長及び薬学科長が書類審査（第1次審査）を行っている。書類審査では、

応募者が、教育及び研究上の優れた実績を有していること、あるいは優れた知識・経験及び高度の技術・技能を有していることを確認するとともに、応募者の教育に取り組む姿勢や意欲についても確認している。その結果に基づき、面接候補者を学長に推薦している。第2次審査では、学長、薬学部長等による面接試験を実施し、最終候補者を決定している。面接試験では、候補者による教育研究の実績と抱負についてのプレゼンテーションに基づき、教育上の指導能力や見識について確認し、最終候補者を決定している。その後、教員選考・活動評価委員会の審議、稟議手続きを経て、学園理事長の決裁により任用を決定している。特任教員から専任教員への任用替えにおいても、新規の教員採用と同様に面接試験を実施している。昇任人事においては、毎年度、各教員が提出する「教育研究業績書」に基づき実施している教員活動評価を参考に（基礎資料9）、薬学部長及び薬学科長が昇任候補者を選考し、学長に上申している。その後、教員選考・活動評価委員会での審議、稟議手続きを経て、学園理事長の決裁により昇任を決定している。任用替え及び昇任候補者の審査では、履歴書、教育業績の概要や研究業績だけでなく、「学会・社会に対する寄与の概要」や「教育・研究、学部運営に対するこれまでの取り組みと今後の抱負」を候補者に提出させ、教員選考・活動評価委員会において、候補者の教育理念等に対する考え方や学生の教育や指導に対する姿勢ならびに社会貢献度等に基づき総合的に判断している。任用替えにおいても、任用替えを行うか否かを薬学部長及び薬学科長が検討し、その結果を学長に報告した後、新任教員採用と同じ過程（書類審査は免除）を経て、任用を決定している。

次世代を担う教員を養成するために、助教及び助手の教員も、実習・演習科目、卒業研究等の補助指導を担当する体制を構築している。

摂南大学薬学部には教職員の海外研修制度が設けられており、最長で1年間の長期海外出張が可能である。学園は、出張者の渡航費の全額及び滞在費の一部を補助している。最近では、2019～2020年度に准教授1名がミシガン大学に出張し（訪問時38）、2022～2023年度に講師2名が、それぞれ米国アリゾナ州メイヨー・クリニックと英国セント・アンドルーズ大学に出張した。これまで薬学部からの海外研修は隔年1人であったが、大学の制度変更により、2021年度以降は、実質的に毎年1人の長期海外出張が可能となった。

各教員の教育研究活動の成果は、毎年、教員活動評価・自己申請書内の教育研究業績書で報告しており、大学ホームページ内の「研究者総覧」から直近5年間の研究業績を閲覧することが可能である。また、科学技術振興機構が提供するウェブサイトである「researchmap」でも各教員の研究業績を公開している。

各研究室・分野・センターでは、指導教員数を勘案して5、6年次生を配属し、卒業研究を行っている。1研究室・分野・センターあたりの教員数は1～5人であり、研究費は、学部予算委員会から上程し教授会で承認を得た予算編成基本方針に則って算出後、各研究室及び分野に配分される。予算編成基本方針は、大学から割り当てられた予算を教育研究活動に有効に活用できるように、翌年度の事業計画等を勘案して毎年度見直しを行っている。

現行の予算編成基本方針は、大学から配分される学部予算を「教育研究経費」、「院生研究費」、「学部経費」の3区分に分類している。「教育研究経費」は、各研究室・分野単位で配分しており、実験系教員に対しては、職位に関係なく一律120万円、非実験系教員に対しては、教授、准教授、講師には50万円、助教には40万円、助手には30万円を配分している。

「院生研究費」として、大学院生1名あたり20万円を配分している。加えて、研究室・分野ごとに前々年度の論文発表件数をポイント化し、「研究発表奨励金」として研究費を増額している（「自己点検・評価書」表5-2-1）。2022年度の1研究室・分野あたりの教育研究経費は、年間70万円～595万円となっている。2022年度から教育研究経費を教員の業績を加味して配分するように変更され、2023～2025年度の3年間の試行を経て必要な改訂を行い、2026年度から本格運用する予定としている。「学部経費」は、学部で共通に使用する物品等を購入するための費用であり、実験動物用の飼料、施設設備費、R I (Radioisotope) 施設運営費等に充てられている。

2020年度、実験施設の面積から教員1人当たりの占有面積を計算した結果、実験系の研究が主となる基礎系教員では、30～100㎡/人（平均約50㎡）となり約3倍の格差があることが判明したので、是正を進めている。また、教育系教員が実験を行うための実験施設が十分でなかったことから、約220㎡の実習室を教育系教員の共同実験室へ改修し、2021年度から運用を開始した（基礎資料8）。

教員の授業担当時間数は、「専任教員の授業担当時間に関する規定」により設定されている。2022年度の薬学部専任教員（助教以上）の授業担当時間数は、上限責任時間（16.9時間/週、大学の授業担当時間の計算方法では26時間/週）より少ない時間数で時間割を編成し、教員の研究時間を確保している（基礎資料7）。

教育活動の向上を図るために、2002年度から「摂南大学FD委員会」を設置し、全学的に教育改善に取り組んでいる。委員会が主導して、毎年1～2回の全学FDフォーラムを開催するとともに、授業アンケートの実施、授業公開の実施、FDニュースの発行等を行っている。また、薬学部でも「薬学部FD委員会」を設置し、毎年2回のFD/SDフォ

ーラムと1回のFDワークショップを開催している。FDワークショップでは、教育に関するテーマを設定して討論と発表を行い、教員の教育手法や教育プログラムの改善に役立っている。学生による授業アンケートを毎年2回実施し、学生からの意見を収集している。また、すべての科目に対してすべての教員が自由に見学できる体制を整えており、年2回（約1か月間/回）の強化期間を設けている。授業アンケートや、公開授業を見学した教員からの意見や感想は、担当教員にフィードバックされ、授業改善に役立っている。

2022年度の薬学部FD/SDフォーラムは、2022年4月6日及び2022年9月8日に対面で開催した。薬学部FDワークショップは、2023年3月11日にオンラインで開催した。FD/SDフォーラムの出席者数は、4月6日が教員65名中62名（95.4%）、事務職員8名中5名（62.5%）、9月8日が教員65名中58名（89.2%）、事務職員8名中4名（50%）であった。FDワークショップの出席教員数は、65名中42名（64.6%）であった。

2021年度の学生による授業アンケートの得点が高かった6名に対して教員表彰を実施した。

専任教員が常に新しい医療に対応するために研鑽するための取り組みとして、実務経験を有する専任教員に限らず、すべての教員が臨床で研鑽できる体制を構築し、専任教員の勤務時間中の職場離脱を稟議手続きにより柔軟に認めている。2022年5月1日現在、5年以上の実務経験のある専任教員9名（臨床系教員：7名、教育系教員：2名）中4名及び実務経験のない専任教員2名（基礎系教員2名）が臨床施設で自己研鑽している（「自己点検・評価書」表5-1-7）。

摂南大学では、科学研究費補助金等の競争的資金、公的機関の共同・委託研究費、産官学連携等の外部資金獲得のために、寝屋川キャンパスに「研究支援・社会連携センター」を設け、専任職員が、教員に対して外部資金獲得のための様々な支援を行っている。

枚方キャンパスには、庶務係、学生係、就職係、教務係からなる枚方事務室がある。薬学部には薬学部事務室があり、事務室長1名のほか、枚方事務室の4つの係のスタッフが薬学部の業務を兼務している。2022年5月1日現在、枚方事務室の職員数は合計31名であり、そのうち薬学部の業務を担当する職員は、専任職員11名（課長1名、係長2名、課員2名、嘱託職員3名、非常勤職員3名）である（基礎資料5）。

薬学部共同利用機器室には、実験研究機器の管理と使用の指導を行う研究員1名を配置している。動物飼育室及び実験排水設備の管理のため、委託外部業者から派遣された管理要員1名を配置している。薬用植物園の維持管理のため、技術職員2名を配置している。

## 6 学生の支援

本項目は、適合水準に達している。

摂南大学薬学部では、1年次から担任制を設けている。担任教員は、1年次担当のスタートアップゼミを通年で担当している。在学期間中、学生の学習状況に応じて、随時、履修指導や学習相談を行っている（基礎資料7）。全専任教員がスチューデントアワーを設定し、学生指導や学習相談にあっている。4月には、初年次教育の一環として、枚方キャンパスの3学部（薬学部、看護学部、農学部）合同で「学修キックオフセミナー」を1日で開催している。

枚方キャンパスの学生相談室では、2018年4月以降、カウンセラー3名を配置して、常時学生の相談に対応できる体制を整えている。2020年度からはCOVID-19の感染拡大の影響により、オンライン相談や電話相談を実施している。学生のヘルスケアならびにメンタルケアについては、入学時に新入生ガイダンスで説明しているほか、「学生生活ガイドブック」に明記するとともに、ホームページで周知している。

5年次の薬学臨床実習時のメンタルケアのため、2019年度に特別な支援が必要となる学生が相談できる窓口「実務実習学生こころの支援」を開設するとともに、「実務実習こころの支援ガイドライン」を制定した。実務実習ガイダンスを通して学生に周知し、2020年2月の第1期実務実習から運用を開始した。2022年度は学生2名から申請があり支援を行った。

「障がい学生修学支援に関する指針（ガイドライン）」を策定し、障がい学生本人（及び保護者）からの申請（要望）に基づいて、学生が学生生活を送るうえで必要な支援を行っている。薬学部では、2022年度に入学した学生に対して合理的な配慮を行った。

摂南大学では、進路選択に関する支援組織として就職部を設置しており、枚方キャンパスにおいては、枚方事務室就職係にキャリアカウンセラー2名を配置している。枚方キャンパス内には、就職資料室が設置されており、また、就職情報ウェブシステムが構築されており、ネットから求人情報等の入手が可能となっている。

薬学部にも就職委員会が設置されており、学生の能力開発や就職支援方針の策定等を行っている。具体的な就職支援活動として、全学年が参加できる業界セミナー、枚方事務室就職係職員による5、6年次の学生を対象とした就職ガイダンス、学生個々を対象とした進路面接やSPI対策等を行っている。2019年度入学生からは、就職活動の筆記試験対策として利用できるeラーニングシステムを導入している。

また、独自の教育プログラム「キャリア形成」コースを設け、1～6年次まで全学年を

通じて科目を開講している。具体的な事例として、「学修キックオフセミナー」でのファシリテーターや基礎実習におけるアシスタント、薬用植物園の一般公開における地域住民への対応などを行っていることが訪問調査で確認された。

学生の意見を汲み上げるシステムとして、キャンパス内に常置している「学生意見箱」、大学ホームページ内の「お問い合わせ」、「図書館サービスおよび利用に関するアンケート」、「教育懇談会での保護者からの相談・アンケート」がある。寄せられた意見は、学部長等が確認し、必要に応じて関連する委員会へ対応を検討するよう依頼している。これまでにアンケートで寄せられた意見に基づき、①教室のエアコンの増設、②エントランス壁面の美化、③学生相談室のカウンセラーの増員等が行われた。

実験・実習に係る必要な安全教育体制として、1年次後期の必修科目「基盤実習」において、安全メガネの着用等、安全な実験手技や実習に対する心構え等を指導している。実験・実習の導入講義時には、化学薬品の取扱い、廃液の処理方法、実験動物の扱い方等を指導している。実験・実習を行うにあたっては、学生数に応じて教員を複数名配置し、実験等を行う学生の安全を確保している。有機溶剤等を扱う実験・実習室内には、有機溶剤が人体に及ぼす影響、取扱い上の注意事項、ならびに中毒が発生した時の応急処置方法を掲示して、学生に周知している。各フロアには緊急シャワーを設置している。全教室には、「突然人が倒れた際の対応方法」を掲示している。該当する学生を対象として、動物飼育室利用者講習会、R I利用者講習会、遺伝子組換え実験に係る安全講習会、有害化学物質管理方針に基づく安全教育を実施している。

入学者全員が「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」及び「学生教育研究賠償責任保険（学研賠）」に加入しており、2010年度入学生からは、保険費用の全額を学園の学生互助会が負担している。「学研災」には「接触感染予防保険金支払特約」を付帯し、実務実習やインターンシップにおける万一の事故にも備えている。学園では、「防火・防災管理規定」、「自衛保安隊に関する内規」を定めているほか、設置学校ごとにポケットサイズの「災害時行動マニュアル」を作成し、全学生及び全教職員に配付し、常時携帯するよう周知している。枚方キャンパスでは、2017年度から新入生全員を対象に講義中に地震が発生したことを想定して避難訓練を実施している。2020年度はCOVID-19の感染拡大の影響により実施せず、2021年度は教養型防災訓練として実施した。2022年度は総合防災訓練を実施した。

健康診断は、毎年4月に全学生を対象に実施しているが、受診率は高いものの100%にはなっていないので改善が望まれる。5年次の薬学臨床実習の実施にあたり必要なワクチン接種については、入学前に保護者に向けて「感染予防に関するお願い」を配付し、入学前

の予防接種を促している。3年次生を対象に抗体検査及びクオンティフェロン検査（結核菌感染検査）を実施している。検査履歴及びワクチン接種歴は保健室が一元管理し、実務実習委員長が確認している（基礎資料10）。2022年度は、COVID-19の感染拡大防止のための施策（各種ガイドラインの運用、感染対策設備の設置・運用）を行った。

経済的理由により就学が困難な学生に、一定の金額を貸与あるいは給付する奨学金制度を設けている。日本学生支援機構奨学金、高等教育の修学支援制度、民間団体や地方自治体等の奨学金のほか、摂南大学学内一般奨学金（給付）がある。貸与あるいは給付対象学生は、学業成績や家計状況等に基づき選考している。奨学金に関する情報は、学生生活ガイドブックに記載されているほか、ホームページでも周知している。奨学金貸与あるいは給付に関する説明会は、4月及び9月に実施している。

## 7 施設・設備

本項目は、適合水準に達している。

枚方キャンパスには、300人以上収容の大講義室が3室及びメディックスホール1室、170～250人程度の中教室が23室、48～60人収容の小教室が16室、10人程度の参加型学習のための演習室が39室ある（基礎資料11-1）。小教室・演習室では可動式の什器を採用することにより、必要に応じてレイアウトの変更が可能である（基礎資料11-1）。また、2室の大講義室とメディックスホール間では、プロジェクターの映像ならびに音声をリアルタイムで中継できる（基礎資料11-1）。

枚方キャンパスには、薬学部の学生が化学系・生物系の実習を行うための施設として、80人が同時に利用できる約220㎡の実習室が3室、120人が同時に利用できる約460㎡の実習室が4室ある（基礎資料11-1）。実習室には、空調のほか、ガス・水道等の設備が付いた実験台ならびにドラフトチャンバーや緊急シャワー等を設置している。110～130人の学生が同時にパソコンを利用できる情報処理演習室が2室ある（基礎資料11-1）。共同利用実験施設として、動物飼育室、R I 実験室、薬用植物園を有している。特に薬用植物園は、薬学部開設時から設置されており（基礎資料11-1）、薬学部の教育や研究に活用されている。植物園には、日本薬局方に収載されている生薬の基原植物や製薬原料植物など約300種の植物を栽培・展示しており、その総面積は約2,500㎡である。教育施設としては生薬学実習やキャリア教育などの場として、研究施設としては天然物や遺伝子解析に用いる植物の供給の場として利用されている。2019年度に薬用植物園の再編成を行った。キャンパス正門側に薬樹園を新設し、学生の往来が多いキャンパス内各所に薬用植物を配置し、植物名を



明記したプレートを設置した（基礎資料11-1）。

薬学臨床実習事前学習は、2008年度に整備した模擬薬局2室（病院薬局実習室、保険薬局実習室）、無菌製剤実習室、注射調剤実習室、調剤実習室、服薬指導実習室、病棟実習室、医薬品情報実習室、模擬病室2室（模擬病室1、模擬病室2）、講義室、薬学臨床実習準備室を用いて行っている（基礎資料11-1）。

研究室及び分野はグループ制を採用しており、研究領域ごとに約50～100㎡程度の研究室を1～3室割り当て、教育研究を行っている（基礎資料8、基礎資料11-2）。研究室・分野の新設や統廃合等により、基礎系研究室で教員1名あたりの施設面積に約3倍の格差があることが判明したので、是正を進めている（訪問時1-19）。大型機器等については共同利用機器室に整備し、共通で利用している（基礎資料11-2、「自己点検・評価書」表7-1-1）。2021年度、薬学部と農学部がそれぞれ所有する共同利用機器について、学部間相互利用に関するルールが整備され、農学部の共同利用機器も利用可能となった（「自己点検・評価書」表7-1-2）。

枚方キャンパス図書館の総面積は1,608㎡、学生閲覧室の座席数は281席である（基礎資料12）。蔵書数は約84,000冊であり、毎年2,000冊以上の図書を新規に購入している（基礎資料13）。寝屋川キャンパスには蔵書数約449,000冊の図書館があるほか、学園のほかの学校にも図書館（室）を整備している（基礎資料13）。学園が所有する全ての蔵書は、所蔵検索システムOPAC（Online Public Access Catalog）により自由に検索ができ、また相互に貸借できる。大学ホームページ内の学内専用ページに「外部データベース」、「電子ジャーナル」、「電子ブック」等をまとめたページを作成している。薬学部で、購読（契約）している学術外国雑誌及び外部データベースは、学生の学修を支援するものとして十分に整備されている（「自己点検・評価書」表7-1-3）。

薬学部には、663席の自習室があり、校舎内には自習可能なスペースもあり、定期試験前には教室を開放している（基礎資料11-1、基礎資料12）。自習室は、平日の他、土曜日、日曜日、祝日も8:00から22:00まで利用できる。図書館資料閲覧室は、平日及び土曜日の9:00から22:00まで利用できる。定期試験1週間前から定期試験期間中は、さらに日曜日、祝日も9:00から22:00まで利用できる（基礎資料11-1、基礎資料12）。

枚方キャンパスには、多目的グラウンド、テニスコート、体育館が整備されており、課外活動等で利用されている。

## 8 社会連携・社会貢献

本項目は、適合水準に達している。

摂南大学薬学部は、近隣の15施設の医療機関と「教育・研究の連携と協力に関する協定」を締結し（「自己点検・評価書」表5-2-2）、現場で活躍している医師、薬剤師、看護師等の医療関係者との連携・交流を図っている。2019年度には関西医科大学及び大阪歯科大学と「医歯薬に関する学術・研究の連携と協力に関する協定」を締結した。病院、薬局、ドラッグストア、他の医療系大学との人的交流を通じ、多くの共同研究を実施している。2021年度、医療界及び産業界との共同研究業績は、学会発表42件、論文発表15件であった。

認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップにおいて、薬学部教員はタスクフォースとして参画している（基礎資料9 p82、p101、p155、p163）。また、生涯学習支援委員会を組織し、卒後研修の一環として公開講座を実施している。公開講座は、薬学部が主催し、卒業生同窓会である薬友会との共催で、2007年度より実施している。これらは、医療関係のトピックスをテーマとして、主に医師・薬剤師等に講師を依頼している（「自己点検・評価書」表8-1-2）。

摂南大学枚方キャンパスは、災害時に地域住民の受け入れを行う避難所に指定されている。八幡消防署及び八幡警察署の協力のもと、2016年7月から大規模災害後の避難所運営を想定した体験型のシミュレーション訓練を実施している。この訓練には薬学部教員が中心的に関与し、参加者全員に、通報連絡班、初期消火班、避難誘導班、救出救護班、避難所支援班、災害対策本部、避難者役などを割り当て、避難所運営を模擬的に体験している（「自己点検・評価書」表8-1-3）。2020～2022年度の3年間はCOVID-19の感染拡大防止の観点から実施されなかった。

摂南大学は、2012年より、枚方市内の健康と医療に関わる14団体で構成される「健康医療都市ひらかたコンソーシアム（共同事業体）」に参画している。2018年には、枚方産学公連携プラットフォームに関する協定を締結し、中高生大学体験事業、未病・予防対策事業、防災施策の強化や充実などを行っている。2015年から、薬学部と看護学部は、交野市松塚地区における住民主体の街づくりを支援する目的で、健康調査やコミュニティーミーティング等を行う「松塚健康プロジェクト」を発足させ、住民と連携して様々なイベントを企画・運営し、教員の引率の下、学生もイベントに参加している。薬学部教員は、枚方市、大阪府等の各自治体から委嘱された委員等を務めている。また、地域住民への薬用植物園の一般公開事業も行っている。このように、地域において様々な連携活動を行っている（「自己点検・評価書」表8-1-4）。

摂南大学では、英文ホームページを開設しており、学部及び大学院の概要等のほか、外国人留学生及び帰国子女入試に関する情報等が閲覧できる。外国の大学や研究機関との国際学術交流に関しては、2017年度にグローバル教育ワーキンググループ（2020年度、教務委員会に統合）を組織し、2018年度よりアジア及び米国における海外研修を実施してきた（「自己点検・評価書」表8-1-5）が、2020～2022年度はCOVID-19感染拡大の影響により中止となった。2019年7月にはカリフォルニア大学リバーサイド校と協定を締結した。グローバル教育の一環として、主として外国人及び学内教員による講演会を開催している（「自己点検・評価書」表8-1-6）。教職員の海外研修については、最長で1年間の海外研修制度があり、2019年度に1名、2022年度に2名がそれぞれ1年間の長期海外出張を行った。その一方で、海外からの留学生受け入れについては、2000年以降では3名（エジプト1名、ベトナム2名）を受け入れているが、2013年以降の受け入れはない。海外の大学や研究機関からの教員や研究員の受け入れについては、2000年以降では10名（エジプト1名、中国2名、ベトナム7名）を受け入れているが、2017年以降の受け入れはない。海外からの留学生や研究員を積極的に受け入れる体制を整備し、国際交流のさらなる活性化に努めることが望まれる。

#### IV. 大学への提言

##### 1) 長所

1. アセスメント・ツリーは、学年進行に従った評価手法・評価項目と卒業までに学生が身につけるべき「8つの資質」との関係が一目でわかる優れたものとなっている。（1. 教育研究上の目的と三つの方針）
2. 低学年次から多くの科目でSGDやTBLを取り入れるとともに、看護学部と合同の演習科目（「薬剤師になるために」、「患者安全」、「患者コミュニケーション」等）や看護学部及び農学部と合同の「学修キックオフセミナー」を開講している。（3. 薬学教育カリキュラム 3-1 教育課程の編成）
3. 実習・演習科目では、学生間でお互いに評価させるピア評価やルーブリック評価表を用いたパフォーマンス評価が行われている。（3. 薬学教育カリキュラム 3-2 教育課程の実施）
4. 教職員の海外研修制度を有しており、最長で1年間の長期海外出張ができ、学園が渡航費の全額及び滞在費の一部を補助している。（5. 教員組織・職員組織）

5. 研究室・分野ごとに前々年度の論文発表件数をポイント化し、「研究発表奨励金」として研究費を増額している。（５．教員組織・職員組織）
6. 専任教員が常に新しい医療に対応するために研鑽するための取り組みとして、実務経験を有する専任教員に限らず、すべての教員が臨床で研鑽できる体制を構築し、専任教員の勤務時間中の職場離脱を稟議手続きにより柔軟に認めている。（５．教員組織・職員組織）
7. 通常の学生生活でのメンタルケアに対応する学生相談室の他に、５年次の薬学臨床実習時のメンタルケアのための窓口「実務実習学生こころの支援」を開設するとともに、「実務実習こころの支援ガイドライン」を制定している。（６．学生の支援）
8. 独自の教育プログラム「キャリア形成」コースを設け、１～６年次まで全学年を通じて科目を開講し、受講学生は、「学修キックオフセミナー」でのファシリテーター、基礎実習におけるアシスタント、薬用植物園の一般公開における地域住民への対応などを行っている。（６．学生の支援）
9. 近隣の15施設の医療機関と「教育・研究の連携と協力に関する協定」を締結し、現場で活躍している医師、薬剤師、看護師等の医療関係者との連携・交流を図っている。（８．社会連携・社会貢献）
10. 関西医科大学及び大阪歯科大学と「医歯薬に関する学術・研究の連携と協力に関する協定」を締結し共同研究を進めている。（８．社会連携・社会貢献）

## 2) 助言

1. 自己点検・評価に係る委員会活動を適切かつ継続的に実施するために、委員会の設置目的、メンバー構成、所掌事項等を記載した規約（あるいは内規）を制定し、明示することが望まれる。（２．内部質保証）
2. 卒業研究に従事すべき時間数を充足していないにもかかわらず、卒業研究の単位が認定されている例が数件ではあるが確認されたので、より厳密なチェックを行うことが望まれる。（３．薬学教育カリキュラム ３－２教育課程の実施）
3. ６年次後期の「総合薬学演習」では、本試験受験資格の記載内容が、シラバスと別途配付のガイドラインで異なっているので統一することが望まれる。（３．薬学教育カリキュラム ３－２教育課程の実施）
4. 学修成果の測定結果とディプロマ・ポリシー到達確認用ルーブリックによる自己評価との相関について検証を重ね、教育課程の編成及び実施の改善や向上に活用していく

ことが望まれる。(3. 薬学教育カリキュラム 3-3 学修成果の評価)

5. 「医療人の資質」と「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を測定する方法として、すべての入試区分で面接試験を導入する方向で検討を開始しているが、実施時期は未定であるので、早期の実現が望まれる。(4. 学生の受入れ)
6. 専任教員1名あたりの学生数が21.5名となっているので、10名以内にすることが望まれる。(5. 教員組織・職員組織)
7. 健康診断は、毎年4月に全学生を対象に実施しているが、受診率は高いものの100%にはなっていないので改善が望まれる。(6. 学生の支援)
8. 海外からの留学生や研究員を積極的に受け入れる体制を整備し、国際交流のさらなる活性化に努めることが望まれる。(8. 社会連携・社会貢献)

## V. 認定評価の結果について

摂南大学薬学部薬学科（以下、貴学）は、2022年度に本機構の、「薬学教育評価 評価基準」（以下、「評価基準」）に基づく6年制薬学教育プログラムの自己点検・評価を実施し、「薬学教育評価申請書」を本機構に提出しました。

I～IVに記載した内容は、貴学が自己点検・評価の結果により作成し本機構に提出した「調書」（「自己点検・評価書」及び「基礎資料」）と添付資料に基づいて行った本評価の結果をまとめたものです。

### 1) 評価の経過

本評価は、本機構が実施する研修を修了した4名の評価実施員（薬学部の教員3名、現職の薬剤師1名）で構成される評価チームによるピア・レビューを基本にして行いました。

まず、書面調査として、個々の評価実施員が「調書」に基づいて「評価基準」の達成状況を検証して所見を作成し、それらを評価チーム会議で検討して評価チームの所見をとりまとめました。評価チームは、書面調査の所見を整理した結果に貴学への質問事項などを加えた「評価チーム報告書案」を作成し、これを貴学に送付して、「評価チーム報告書案」に対する確認および質問事項への回答（第1回目のフィードバック）を求めました。

評価チームは、貴学からの回答と追加された資料、並びに「評価チーム報告書案」に対する意見を検討して「評価チーム報告書案」の所見を修正し、その結果を踏まえて、訪問調査を実施しました。訪問調査では、書面調査では十分に評価できなかった点を含めて貴学の6年制薬学教育プログラムの状況を確認することを目的に、「訪問時間閲覧資料」の閲覧、施設・設備見学と授業参観、大学関係者・若手教員との意見交換、並びに学生との面談を行いました。訪問調査を終えた評価チームは、訪問調査で得た情報と書面調査の所見を総合的に検討し、「評価チーム報告書」を作成して評価委員会に提出しました。

「評価チーム報告書」の提出を受けた評価委員会は、評価チームの主査を含めた拡大評価委員会を開いて、評価チームの判断を尊重しつつ、「評価結果」に大学間での偏りが生じないことに留意して「評価チーム報告書」の内容を検討し、「評価報告書（評価委員会案）」を作成しました。次いで、評価委員会は「評価報告書（評価委員会案）」を貴学に送付し、事実誤認あるいは誤解を生じる可能性がある表現などに対する「意見申立て」（第2回目のフィードバック）を受けました。

評価委員会は、申立てられた意見を検討して「評価報告書（評価委員会案）」を修正するための拡大評価委員会を開催し、「評価報告書原案」を作成し総合評価評議会に提出しまし

た。

本機構は、外部有識者を含む評価の最高意思決定機関である総合評価評議会において「評価報告書原案」を慎重に審議し、「評価報告書」を決定し、理事会に報告しました。

本機構は、「評価報告書」を貴学に送付するとともに社会に公表し、文部科学省及び厚生労働省に通知します。

なお、評価の具体的な経過は「3）評価のスケジュール」に示します。

## 2) 「評価結果」の構成

「評価結果」は、「Ⅰ．総合判定の結果」、「Ⅱ．総評」、「Ⅲ．『項目』ごとの概評」、「Ⅳ．大学への提言」で構成されており、それらの意味は以下の通りとなっています。

「Ⅰ．総合判定の結果」には、貴学の薬学教育プログラムが総合的に本機構の「評価基準」に適合しているか否かを記しています。

「Ⅱ．総評」には、本機構の「評価基準」に対する貴学の達成状況を簡潔に記しています。

「Ⅲ．『項目』ごとの概評」には、「評価基準」を構成する項目1、2、3-1、3-2、3-3、4、5、6、7、8について、【基準】に対する達成状況の概要を記しています。

「Ⅳ．大学への提言」は、「評価結果」に関する本機構からの特記事項で、「1）長所」、「2）助言」、「3）改善すべき点」に分かれています。貴学に対しては「改善すべき点」に該当する提言はありませんでした。

「1）長所」は、貴学の特色となる優れた取り組みと評価されたものを記載しています。

「2）助言」は、「評価基準」を達成する最低要件は満たしているが、目標を達成するためには改善が望まれることを示すものです。「助言」の内容に対する改善の実施は貴学の判断に委ねますが、個々の「助言」への対応状況についての報告書の提出が必要です。

なお、本「評価結果」は、貴学の「自己点検・評価書」及び「基礎資料」に記載された2022年度における薬学教育プログラムを対象にして、書面調査並びに訪問調査において確認した状況に基づいて作成したものであるため、現時点ではすでに改善されている点が提言の指摘対象となっている場合があります。また、別途提出されている「調書」の誤字、脱字、数値の誤記などに関する「正誤表」は、本「評価報告書」及び「調書」を本機構のホームページに公表する際に、合わせて公表します。

## 3) 評価のスケジュール

貴学の薬学教育プログラム評価を以下のとおり実施しました。

- 2022年2月1日 本評価説明会\*を実施
- 2023年3月3日 貴学より調書の草案の提出。機構事務局は内容を確認
- 3月27日 貴学より「薬学教育評価申請書」の提出
- 3月29日 機構事務局より貴学へ草案の確認終了を通知
- 4月24日 貴学より評価資料（調書及び添付資料）の提出  
評価実施員は評価所見の作成開始
- ～6月20日 主査は各実施員の評価所見を基に「評価チーム報告書案」の原案を作成
- 6月30日 評価チーム会議を開催し、主査の原案を基に「評価チーム報告書案」を作成
- 7月25日 評価チームは「評価チーム報告書案」を機構事務局へ提出  
機構事務局より貴学へ「評価チーム報告書案」を送付
- 8月10日 貴学より「「評価チーム報告書案」に対する確認および質問事項への回答」の提出
- 9月8日 評価チーム会議\*を開催し、貴学からの「「評価チーム報告書案」に対する確認および質問事項への回答」を検討し、訪問時の調査項目を確認
- 10月5日・6日 貴学への訪問調査実施
- 10月16日 評価チーム会議\*を開催し、「評価チーム報告書」を作成
- 11月10日 「評価チーム報告書」を評価委員会へ提出
- 11月29日・30日 評価委員会（拡大）を開催し、「評価チーム報告書」を検討
- 12月18日 評価委員会（拡大）\*\*を開催し、「評価報告書（評価委員会案）」を作成
- 2024年1月4日 機構事務局より貴学へ「評価報告書（評価委員会案）」を送付
- 1月15日 貴学より「意見申立書」の提出
- 2月5日 評価委員会（拡大）\*\*を開催し、意見申立てに対する「回答書」及び「評価報告書原案」を作成
- 2月14日 機構事務局より貴学へ意見申立てに対する「回答書」を送付
- 2月20日 「評価報告書原案」を総合評価評議会へ提出
- 3月1日 総合評価評議会を開催し、「評価報告書」を決定
- 3月18日 機構事務局より貴学へ「評価報告書」を送付

\*はオンラインで、\*\*は対面とオンラインのハイブリッド形式で実施しました。

#### 4) 提出資料一覧

(調書)

自己点検・評価書

薬学教育評価 基礎資料



(根拠資料)

提出資料一覧（様式2-1、 2-2）を以下に転載

追加資料一覧 を以下に転載



		【基準 3-2-5】 【基準 3-3-1】 【基準 6-1】
資料 6	2022 年度時間割表	—
資料 7	2022 年度に用いた実務実習（薬局・病院）の概略評価表	—
資料 8	入学志望者に配布した学生募集要項 A：入試ガイド 2023 B：2023 年度入試 入学試験要項（公募制推薦入試・一般選抜・大学入学共通テスト利用入試）【入試制度編】 C：2023 年度 入学試験要項〈内部推薦入試 <b>専願制</b> 〉 D：2023 年度 入学試験要項〈指定校推薦入試 <b>専願制</b> 〉 E：2023 年度 入学試験要項〈総合型選抜 A0 入試〉 F：2023 年度 入学試験要項〈帰国生徒入試 <b>併願制</b> 〉 G：2023 年度 入学試験要項〈外国人留学生入試 <b>併願制</b> 〉 H：2023 年度 入学試験要項〈学園内設置大学転入学選考〉 I：2023 年度 入学試験要項（公募制推薦入試・一般選抜・大学入学共通テスト利用入試）【出願・受験編】	【基準 1-2】 【基準 4-1】

資料 No.	根拠となる資料・データ等（例示）	自由記入欄 （当該項目の控など）
資料 9	中教審答申、学校教育法第 87 条	【基準 1-1】
資料 10	薬学部アセスメント・ポリシー/アセスメントプラン	【基準 1-1】 【基準 1-2】 【基準 2-2】 【基準 3-3-1】
資料 11	専門職連携教育委員会議事録一覧	【基準 1-1】
資料 12	アドバンスド OSCE ワーキンググループ議事録一覧	【基準 1-1】
資料 13	摂南大学ホームページ ( <a href="https://www.setsunan.ac.jp/aboutus/policy/yakugaku/">https://www.setsunan.ac.jp/aboutus/policy/yakugaku/</a> ) 教育研究上の目的	【基準 1-1】 【基準 1-2】
資料 14	2021 年度第 6 回学部自己点検・評価委員会議事録	【基準 2-1】
資料 15	摂南大学ホームページ ( <a href="https://www.setsunan.ac.jp/aboutus/jikotenken.html">https://www.setsunan.ac.jp/aboutus/jikotenken.html</a> ) 自己点検・評価への取り組み	【基準 2-1】
資料 16	入試ガイド 2022 総合型選抜 A0 入試の募集人員	【基準 2-1】 【基準 4-1】

資料 17	薬学部における修学状況等 2021 年（令和 3 年）度調査結果	【基準 2-1】
資料 18	2018 年度第 6 回教務委員会議事録	【基準 3-1-1】
資料 19	2021 年度第 7 回薬学部教務委員会議事録	【基準 3-1-1】 【基準 3-3-1】
資料 20	グループ協議会日程	【基準 3-2-1】
資料 21	2021 年度第 10 回実務実習委員会議事録	【基準 3-2-1】
資料 22	卒業研究ガイドライン（学生用）	【基準 3-2-1】
資料 23	摂南大学ホームページ （ <a href="https://www.setsunan.ac.jp/kenkyu/kyoiku/manabi.html">https://www.setsunan.ac.jp/kenkyu/kyoiku/manabi.html</a> ）理解 を深める少人数教育、薬学部担任制	【基準 3-2-2】 【基準 6-1】
資料 24	スタートアップゼミ実施ガイドライン	【基準 3-2-2】 【基準 3-2-5】
資料 25	FIRST YEAR STUDY GUIDE 2022	【基準 3-2-2】
資料 26	成績確認願	【基準 3-2-2】
資料 27	2021 年度第 4 回薬学部教務委員会議事録および資料 3	【基準 3-2-4】
資料 28	特別講義ガイドライン	【基準 3-2-5】 【基準 3-3-1】
資料 29	薬学臨床実習ガイダンス資料	【基準 3-2-5】 【基準 6-1】
資料 30	2022 年度 応用薬学実習配属研究室・分野について	【基準 3-2-5】
資料 31	2022 年度 薬学研究配属研究室・分野について	【基準 3-2-5】 【基準 5-1】
資料 32	摂南大学ホームページ（ <a href="https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/yakugaku/news/detail.html?id=5997">https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/yakugaku/news/detail.html?id=5997</a> ）薬学共用試験の結果	【基準 3-3-1】
資料 33	受験上の配慮体制	【基準 4-1】
資料 34	6 年制課程における薬学部教育の質保証に関するとりまとめ	【基準 4-2】
資料 35	教員組織の編成方針	【基準 5-1】
資料 36	摂南大学ホームページ （ <a href="https://www.setsunan.ac.jp/aboutus/openinfo/kyoin.html">https://www.setsunan.ac.jp/aboutus/openinfo/kyoin.html</a> ）所 属別教員数	【基準 5-1】
資料 37	2022 年度研究室一覧	【基準 5-1】
資料 38	応募要領	【基準 5-1】
資料 39	昇任審査書類様式	【基準 5-1】
資料 40	摂南大学ホームページ （ <a href="https://gyoseki.setsunan.ac.jp/search?m=affiliation&amp;l=ja&amp;a2">https://gyoseki.setsunan.ac.jp/search?m=affiliation&amp;l=ja&amp;a2</a> ）	【基準 5-2】

	=0000006&a3=0000026&s=1&o=affiliation) 研究者総覧	
資料 41	2022 年度予算編成基本方針および 2022 年度当初予算	【基準 5-2】
資料 42	専任教員の授業担当時間に関する規定	【基準 5-2】
資料 43	摂南大学ホームページ ( <a href="https://www.setsunan.ac.jp/kenkyu/kyoiku/fd.html">https://www.setsunan.ac.jp/kenkyu/kyoiku/fd.html</a> ) FD 活動	【基準 5-2】
資料 44	摂南大学ホームページ ( <a href="https://www.setsunan.ac.jp/chiiki-kouken/chiiki/renkei/">https://www.setsunan.ac.jp/chiiki-kouken/chiiki/renkei/</a> ) 連携協定締結実績	【基準 5-2】 【基準 8-1】
資料 45	摂南大学ホームページ ( <a href="https://www.setsunan.ac.jp/kenkyu/shien/">https://www.setsunan.ac.jp/kenkyu/shien/</a> ) 研究支援	【基準 5-2】
資料 46	摂南大学ホームページ ( <a href="http://www.setsunan.ac.jp/gakusei/sodan-hirakata.html">http://www.setsunan.ac.jp/gakusei/sodan-hirakata.html</a> ) 学生生活、枚方キャンパス	【基準 6-1】
資料 47	摂南大学薬学部実務実習学生こころの支援ガイドライン	【基準 6-1】
資料 48	2019 年度第 10 回教授会議事録	【基準 6-1】
資料 49	摂南大学ホームページ ( <a href="http://www.setsunan.ac.jp/gakusei/hc-guidelines.html">http://www.setsunan.ac.jp/gakusei/hc-guidelines.html</a> ) 摂南大学「障がい学生修学支援に関する指針 (ガイドライン)」	【基準 6-1】
資料 50 -1	摂南大学ホームページ ( <a href="http://www.setsunan.ac.jp/shushoku/support/index.html">http://www.setsunan.ac.jp/shushoku/support/index.html</a> ) 就職サポート体制	【基準 6-1】
資料 50 -2	摂南大学ホームページ ( <a href="https://www.setsunan.ac.jp/student/">https://www.setsunan.ac.jp/student/</a> ) 在学生・教職員の方へ	【基準 6-1】
資料 51	学生意見箱の意見書・意見書に対する回答 (様式)	【基準 6-1】
資料 52	摂南大学ホームページ ( <a href="http://www.setsunan.ac.jp/toiawase/">http://www.setsunan.ac.jp/toiawase/</a> ) お問い合わせ	【基準 6-1】
資料 53	図書館利用者アンケート (様式)	【基準 6-1】
資料 54	春 (秋) 期教育懇談会 アンケート (枚方会場) 用紙・様式	【基準 6-1】
資料 55	2022 年度実習書 安全教育一覧	【基準 6-1】
資料 56	防火・防災管理規定	【基準 6-1】
資料 57	自衛保安隊に関する内規	【基準 6-1】
資料 58	摂南大学災害時行動マニュアル	【基準 6-1】
資料 59	防災訓練掲示	【基準 6-1】
資料 60	摂南大学ホームページ ( <a href="http://www.setsunan.ac.jp/~center/online/jyunshu.html">http://www.setsunan.ac.jp/~center/online/jyunshu.html</a> ) With コロナにおける学生生活の遵守事項等について	【基準 6-1】

資料 61	【摂南大学】コロナ感染防止マニュアル	【基準 6-1】
資料 62	摂南大学ホームページ ( <a href="https://www.setsunan.ac.jp/gakusei/shogakukin.html">https://www.setsunan.ac.jp/gakusei/shogakukin.html</a> ) 奨学金・各種サポート	【基準 6-1】
資料 63	摂南大学ホームページ ( <a href="https://www.setsunan.ac.jp/~tosho/whatsnew/online/onlinejournal.html">https://www.setsunan.ac.jp/~tosho/whatsnew/online/onlinejournal.html</a> ) 外部データベース等	【基準 7-1】
資料 64	2021 年度共同研究業績一覧	【基準 8-1】
資料 65	2022 年度公開講座ポスター	【基準 8-1】
資料 66	枚方市ホームページ ( <a href="https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000006850.html">https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000006850.html</a> ) 健康医療都市ひらかたコンソーシアム	【基準 8-1】
資料 67	摂南大学ホームページ ( <a href="https://www.setsunan.ac.jp/news/detail.html?id=5827">https://www.setsunan.ac.jp/news/detail.html?id=5827</a> ) 看護学部における『松塚健康プロジェクト』活動報告について	【基準 8-1】
資料 68	松塚健康プロジェクト活動	【基準 8-1】
資料 69	摂南大学ホームページ ( <a href="https://www.setsunan.ac.jp/~p-yakuso/activities.html">https://www.setsunan.ac.jp/~p-yakuso/activities.html</a> ) 植物園活動	【基準 8-1】
資料 70	摂南大学ホームページ ( <a href="https://www.setsunan.ac.jp/english/">https://www.setsunan.ac.jp/english/</a> ) English ページ	【基準 8-1】
資料 71	摂南大学ホームページ ( <a href="https://www.setsunan.ac.jp/~p-global/activities.html#2020.02.24">https://www.setsunan.ac.jp/~p-global/activities.html#2020.02.24</a> ) 薬学部海外研修	【基準 8-1】



訪問時 18	薬学教育評価機構主催のシンポジウムの情報共有に関する資料	【基準 1-1】
訪問時 19	学外兼職一覧	【基準 1-1】 【基準 5-1】 【基準 5-2】
訪問時 20	2021 年度第 8 回薬学部教務委員会議事録	【基準 1-2】 【基準 3-2-1】 【基準 3-2-2】
訪問時 21	授業アンケートに対する教員の回答	【基準 1-2】 【基準 6-1】
訪問時 22	2021 年度第 5 回学部自己点検・評価委員会議事録	【基準 2-1】
訪問時 23	学生の海外研修に関する資料	【基準 3-1-1】
訪問時 24	思い出し実習に関する資料	【基準 3-2-1】
訪問時 25	2022 年度薬学研究発表会副査担当表	【基準 3-2-1】
訪問時 26	2022 年度 1 年次担任一覧	【基準 3-2-2】 【基準 3-2-5】 【基準 6-1】
訪問時 27	修学指導報告書一覧	【基準 3-2-2】 【基準 3-2-3】
訪問時 28	成績表代表例	【基準 3-2-2】
訪問時 29	成績確認回答書一覧	【基準 3-2-2】
訪問時 30	基盤実習評価用ループリック	【基準 3-2-4】
訪問時 31	共用試験実施マニュアル	【基準 3-3-1】
訪問時 32	欠番	—
訪問時 33	2023 年度 摂南大学入学試験における受験上の配慮決定通知書	【基準 4-1】
訪問時 34	2023 年度 転学部・転学科に関する資料	【基準 4-1】
訪問時 35	薬剤師免許番号	【基準 5-1】
訪問時 36	任用規定	【基準 5-1】
訪問時 37	海外出張の旅費支給内規	【基準 5-1】
訪問時 38	長期海外出張計画書	【基準 5-1】 【基準 8-1】
訪問時 39	2020 年度第 4 回教授会資料 1	【基準 5-1】 【基準 8-1】
訪問時 40	2021 年度第 8 回薬学部 FD 委員会議事録	【基準 5-2】
訪問時 41	協定書一覧	【基準 5-2】 【基準 8-1】



訪問時 42	枚方事務室職員一覧	【基準 5-2】
訪問時 43	2022 年度薬学部教員スチューデントアワー一覧表	【基準 6-1】
訪問時 44	欠番	—
訪問時 45	教育懇談会個別懇談カード	【基準 6-1】
訪問時 46	実習室掲示物	【基準 6-1】
訪問時 47	教室掲示物	【基準 6-1】
訪問時 48	2022 年度全学第 1 回動物実験委員会議事録	【基準 6-1】
訪問時 49	RI 利用者講習会資料	【基準 6-1】
訪問時 50	遺伝子組換え実験に係る安全教育に関する資料	【基準 6-1】
訪問時 51-1	感染予防に関するお願い	【基準 6-1】
訪問時 51-2	実務実習でのワクチン接種等に関連した学生支援に関する資料	【基準 6-1】
訪問時 52	研究室における COVID-19 の感染拡大防止のための施策に関する資料	【基準 6-1】
訪問時 53	COVID-19 の感染拡大防止のための施策 消毒液およびパーテーションの設置状況	【基準 6-1】
訪問時 54	2021 年度第 3 回研究推進委員会議事録	【基準 7-1】
訪問時 55	2021 年度第 1 回、第 2 回薬学部図書委員会議事録	【基準 7-1】
訪問時 56	2019 年度防災訓練計画書・実施報告	【基準 8-1】
訪問時 57	関西広域連合登録販売者試験委員 委嘱状写し	【基準 8-1】
訪問時 58	グローバル教育の講演会に関する資料	【基準 8-1】

(様式 2-2 別紙)

訪問時閲覧資料 1 の詳細 (様式 2-2 別紙)

大学名 \_\_\_\_\_ 摂南大学 \_\_\_\_\_

訪問時閲覧資料 No.	訪問時に閲覧を求める資料・データ等	備考 (主な基準・観点)
訪問時 1-1	2022 年度第 5 回教授会議事録および資料 14	【基準 1-1】
訪問時 1-2	2022 年度第 1 回薬学部 FD 委員会議事録	【基準 1-1】 【基準 5-2】
訪問時 1-3	2022 年度第 3 回薬学部 FD 委員会議事録	【基準 1-1】 【基準 5-2】
訪問時 1-4	2022 年度第 11 回実務実習委員会議事録	【基準 1-1】
訪問時 1-5	2022 年度第 6 回教授会議事録および資料 2	【基準 1-1】
訪問時 1-6	2022 年度第 14 回教授会議事録および資料 2	【基準 1-1】
訪問時 1-7	2022 年度第 1 回薬学部就職委員会議事録	【基準 1-1】 【基準 6-1】
訪問時 1-8	2022 年度第 12 回教授会議事録および資料 3	【基準 1-2】 【基準 5-2】 【基準 6-1】
訪問時 1-9	2022 年度第 4 回薬学部教務委員会議事録	【基準 1-2】 【基準 3-2-4】 【基準 3-3-1】
訪問時 1-10	2022 年度第 7 回将来構想委員会議事録	【基準 1-3】
訪問時 1-11	2022 年度第 8 回将来構想委員会議事録	【基準 1-3】
訪問時 1-12	2022 年度第 3 回学部自己点検・評価委員会議事録	【基準 2-1】
訪問時 1-13	2022 年度第 3 回薬学部教務委員会議事録	【基準 2-1】 【基準 3-2-1】 【基準 3-3-1】
訪問時 1-14	2022 年度第 14 回教授会議事録	【基準 2-1】
訪問時 1-15	2022 年度第 1 回学部自己点検・評価委員会議事録	【基準 2-1】
訪問時 1-16	2022 年度第 3 回学部入試制度改革戦略委員会議事録	【基準 2-1】

		【基準 4-1】 【基準 4-2】
訪問時 1-17	2022 年度第 1 回学部入試制度改革戦略委員会議事録	【基準 2-1】 【基準 4-1】
訪問時 1-18	2022 年度第 2 回学部入試制度改革戦略委員会議事録	【基準 2-1】 【基準 4-1】
訪問時 1-19	2022 年度第 1 回予算委員会議事録	【基準 2-1】 【基準 5-2】 【基準 7-1】
訪問時 1-20	2022 年度第 1 回実務実習委員会議事録	【基準 3-2-1】
訪問時 1-21	2022 年度第 2 回実務実習委員会議事録	【基準 3-2-1】 【基準 6-1】
訪問時 1-22	2022 年度第 7 回実務実習委員会議事録	【基準 3-2-1】
訪問時 1-23	2022 年度第 8 回実務実習委員会議事録	【基準 3-2-1】
訪問時 1-24	2022 年度第 9 回教授会議事録および資料 1	【基準 3-2-3】 【基準 3-2-5】 【基準 6-1】
訪問時 1-25	2022 年度第 19 回教授会議事録および資料 1	【基準 3-2-3】 【基準 3-2-5】 【基準 6-1】
訪問時 1-26-1	2022 年度第 17 回教授会議事録および資料 1	【基準 3-2-4】
訪問時 1-26-2	2022 年度第 13 回教授会議事録および資料 10、12	【基準 3-3-1】
訪問時 1-27	2022 年度第 6 回教授会議事録および資料 11	【基準 5-1】
訪問時 1-28	2022 年度第 12 回教授会議事録および資料 15	【基準 5-2】
訪問時 1-29	2022 年度第 8 回教授会議事録および資料 14	【基準 5-2】
訪問時 1-30	2022 年度第 7 回薬学部 FD 委員会議事録	【基準 5-2】
訪問時 1-31	2022 年度第 5 回教授会議事録および資料 3	【基準 6-1】
訪問時 1-32	こころの学生支援検討会議 2022 年度活動報告	【基準 6-1】
訪問時 1-33	2022 年度第 1 回薬学部リスクマネジメント委員会議事録	【基準 6-1】
訪問時 1-34	2022 年度第 2 回薬学部リスクマネジメント委員会議事録	【基準 6-1】
訪問時 1-35	2022 年度第 1 回大学・大学院運営会議議事日程 薬剤師国家試験合格状況 (資料 9)	【基準 8-1】
訪問時 1-36	2022 年度第 1 回生涯学習支援委員会議事録	【基準 8-1】

(様式 2 - 1)

## 追加資料一覧

大学名 \_\_\_\_\_ 摂南大学 \_\_\_\_\_

資料 No.	必ず提出する添付資料	自由記入欄
追加 1	臨床に従事する薬剤師の意見（2022 年度認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ）	—
追加 2	2022 年度第 11 回実務実習委員会議事録（訪問時 1-4）	—
追加 3	2022 年度第 1 回薬学部就職委員会議事録（訪問時 1-7）	—
追加 4	2022 年度第 7 回将来構想委員会議事録（訪問時 1-10）	—
追加 5	2022 年度第 8 回将来構想委員会議事録（訪問時 1-11）	—
追加 6	2022 年度摂南大学薬学部各種委員会委員等一覧	—
追加 7	学部自己点検・評価委員会の FD・SD フォーラム情報共有資料	—
追加 8	外部評価委員に係わる委嘱状及び承諾書	—
追加 9	2022 年度第 3 回学部自己点検・評価委員会議事録（訪問時 1-12）	—
追加 10	2020 年度アセスメント結果 A：初年次のパフォーマンス評価 B：ディプロマ・ポリシーへの到達度評価（1～5 年生） C：実践的薬物療法総合アセスメント到達度 D：臨床準備教育概略評価 E：薬学臨床実習におけるパフォーマンス評価 F：各実習におけるスキルの評価 G：卒業研究アセスメント到達度（5 年生） H：卒業研究アセスメント到達度（6 年生） I：臨床能力総合評価	—
追加 11	2022 年度総合薬学演習ガイドライン	—
追加 12	2022 年度英語科目のシラバス作成要領	—
追加 13	成績不振学生に対する面談等について A：2022 年度前期期末試験成績不振学生に対する面談等について B：2022 年度学年末成績不振学生に対する面談等について	—
追加 14	2022 年度第 3 回薬学部教務委員会議事録（訪問時 1 - 13）	—
追加 15	実践薬学の評価に係わる資料 A：衛生薬学・社会薬学系パート B：生物学・薬理学系パート C：病態・薬物療法および薬物動態系パート	—

	D：総合パート	
追加 16	薬学臨床実習評価資料 A：薬学臨床実習用ルーブリック B：実習終了時評価表	—
追加 17	2022 年度第 2 回学部入試制度改革戦略委員会議事録（訪問時 1-18）	—
追加 18	入試ガイド 2024	—
追加 19	公募制推薦入試 A 日程 個別方式の適正科目「国語」の受験者・合格者	—
追加 20	入学前教育プログラムの実施について	—
追加 21	特任助教を専任教員としてカウントする根拠について A：特任教員規定 B：摂南大学教員選考基準	—
追加 22	FD 委員長からの授業見学案内メール	—
追加 23	2022 年度枚方事務室人事配置	—
追加 24	臨床で薬剤師業務を行っている教員とその頻度	—
追加 25	2022 年度学修キックオフ・セミナーの実施について	—
追加 26	学部・学科別の学生相談室の利用状況	—
追加 27	配慮の同意書	—
追加 28	摂南大学学生相談室主催 FD 研修会	—
追加 29	摂南大学ホームページ、枚方キャンパス学生相談室 ( <a href="https://www.setsunan.ac.jp/gakusei/sodan-hirakata.html">https://www.setsunan.ac.jp/gakusei/sodan-hirakata.html</a> )	—
追加 30	枚方キャンパス 6 号館 1・2F 平面図（薬学部）	—
追加 31	枚方キャンパス 7 号館平面図（看護学部）	—
追加 32	枚方キャンパス 8 号館平面図（農学部）	—
追加 33	枚方キャンパス 6 号館 3F 平面図（薬学部）	—
追加 34	2022 年度キャリア II 日程	—
追加 35	2018 年度～2022 年度の薬用植物園運営委員会議事録	—
追加 36	摂南大学薬学部 2018 年度連携事業報告書	—
追加 37	摂南大学薬学部 2019 年度連携事業報告書	—
追加 38	松塚健康プロジェクト 2015～2022	—
追加 39	薬学部公開講座ポスター 2018～2022	—
追加 40	摂友祭パンフレット 2018 年度	—
追加 41	摂友祭パンフレット 2019 年度	—

(様式 2 - 2)

薬学教育評価 追加訪問時閲覧資料一覧

大学名 \_\_\_\_\_ 摂南大学 \_\_\_\_\_

追加訪問時 閲覧資料 No.	訪問時に閲覧を求める資料・データ等 (全大学共通 必須)	備考
追加訪問時 1	2022 年度英語科目履修者名簿及び 2021 年度 TOEIC IP テスト結果	—
追加訪問時 2	2022 年度上位年次配当科目の履修許可一覧	—